



聖隸クリスチマーク大学・高校の目指すもの

理事長 長谷川 了

聖書のことば
(ローマの信徒への手紙十五章三節)

聖隸学園宗教主任

佐柳 文男



▲聖隸クリスチマーク大学・聖隸クリスチマーク高等学校キャンパス全景

フーア大学が専門職者を大学で養成することによって、専門職者の日本での社会的評価と社会的地位向上に寄与することが出来ると考えるからです。大学院博士課程を設置するなど、内容をさらに充実させて医療・保健・福祉のオンラインの大学と評価されるように前進したいと願っています。

高等学校からは聖隸グループの病院の医師や看護師、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士が養成されます。大学院社会福祉学研究科も開設されました。日本では、これらの専門職者たちの約八〇%以上が専門学校で養成されているのが現状です。

聖隸クリスチマーク大学では一貫して四年制大学と大学院で専門職者の養成を考えてきました。その理由は、アメリカを見ますと看護師をはじめこれらの専門職は高等教育である大学で養成されることによって社会的評価と社会的地位を確立してきた歴史があり、さらにはそれぞれの分野が学問として確立してきたことから、日本でもアメリカと同じ道を歩むものと思います。アメリカなどの先進国と同等の高等教育機関で学び研究することにより、日本の専門職者と研究者は先進諸国の方々と対等の立場で学問し共同研究することが可能になると考へるからです。さらに聖隸クリスチマーク大学

覚士、また福祉施設の管理者や指導者を目指す人が育つて欲しいと願います。アメリカには二〇校以上の姉妹校があり、留学する多くの生徒がいます。この中からアメリカの大学に入り、医療・福祉をはじめ経済金融などでアメリカやヨーロッパ及び開発途上国などで国際的に活躍する人材が育つことを願っています。二十二世紀の人類の福祉に貢献する人材が大学からも高等学校からも現れるることを願います。

聖隸学園の教育は「聖隸」を育てることうと、初めから御自分の満足をお求めにならなかつたことが描かれているのだろうか。聖隸学園の教育は「聖隸」を育てることうと目標とする。聖隸とはイエスに倣つて人の足を洗う人のことである。われわれの教育は学生・生徒に立身出世や長寿富貴など、利己的な願いの成就を約束する教育であつてはならない。利己心の充足に汲々とし、自分を喜ばすこととを求めて人生を終る人間を作る教育であつてはならない。

われわれの教育は隣人を自分のようく愛する人を育てることを目標とする。自分を喜ばすことよりも、隣人を喜ばせることに一身を傾げる人間を育てようとする。隣人により良く仕えることができるよう、最も良い知識と技術とに習熟する人間を育てようとする。人の弱さや痛みを知り、人の重荷を担い、「互いの向上に務める」人間を育てようとする。

社会がそのような教育を必要としている。

聖句

キリストも御自分の満足はお求めになりませんでした

(ローマの信徒への手紙十五章三節)

聖隸クリストファー大学



▲新しく建てられた
3号館玄関ターゲルリーフ

大学の新たなスタート

学長 深瀬 須加子

さきにお送りい
たしました学報第

二十三号(四月十

日発行)で、本年度

はリハビリテーショ

ン学部と大学院社

会福祉学研究科

を開設する喜びのご報告をさせて戴きました。既設学部に近年需要の高まっているリハビリテーション学部が新たに加わり、本学の目ざしている、保健・医療・福祉の領域で直接対象の方々への援助・支援の実践活動をする各種専門職の幅も広がり名実共に「メディカル育成校としての新たな出発となりました。

四月六日には、浜松アクトシティホール(浜松駅近く)でバイオルガンの莊厳な演奏による神への讃美と祈りによる礼拝に始まり、嚴肅なうちに入学式を行いました。新入生の明快な、そして力強い誓いの言葉を受け若者達の頼もしさに期待も大きく、また喜びいっぱいの入学式でした。これらの学生達に答え得る大学としての責任をあらためて痛感した次第です。

今年の新入生は、短期大学部の募集停止に伴う定員増として看護学部一五一名(編入生含)、短期大学部専攻科助産学特別専攻一七名、社会福祉学部一二八名(編入生含)、リハビリテーション学部三専攻合せて八五名、大学院の看護学研究科四名、社会福祉学研究科四名と合計三八九名を迎え、かつてない多数の新入生でした。在校生総数一六四名となります。社会福祉学部が来年度リハビリテーション学部が三年後に学部完成年度を迎える。そして一年後には大学院リハビリテーション学研究科(仮称)設置の計画が立てられており準備を早速開始いたします。研究科・学部増に合わせて教職員数も増加いたしました。この数年で大学は大きく変わりました。また今後も変化していくことになります。合わせて大学のより充実を図つて参らねばなりません。

大学院社会福祉学研究科 開設

社会福祉学研究科 畠山 龍郎

二十一世紀に入り急速に社会情勢は変化して参りました。教育界、特に大学教育につきまして、国立大学の統廃合、独立法人化、公立も同様、統合が行われる産学共同事業等々と

大改革が行われている時代です。私学である本学は、かねてより一層の充実を図つて参りました。その一つに教員の授業内容及び授業方法の改善向上への取り組み。また、研究を各学部毎に継続して参りましたが、本年度は更に各学部共通課題としても取り上げる計画で進めております。また大学の地域貢献として、学部毎に周辺の医療・福祉施設職員の方々への研修の支援や種々職種団体等の講習会講師として協力しておりますが、本年度は更に、聖隸の始まりがそうであつた様に直接援助・支援を必要とする方、そのご家族に対し相談・指導・支援を行える様に準備を進めていくところです。これらは地域貢献に合わせて、看護・福祉・リハビリテーションの各教員の共同活動とし、研究・教育活動にも進展させていくものと新たに大学の出発として、聖隸の特色として地域貢献活動に発展させていきたくその準備を進めて参ります。

振り返りますと三〇余年前看護短期大学を世に先立つて開学し、また同様に看護大学を開学して二年、そして急速に大学は改革されました。その変動の中で見失つてはならないもの、変えてはならないもの、ものとして本大学の教育理念「隣人を自分のように愛しなさい」をしっかりと引き継いでいくことが最も重要であると存じております。



▲入学式で力強い誓いの言葉を読みあげる新入生代表の学生

本学社会福祉学部の教育課程を基盤とし、さらに聖隸福祉集団の高齢者へのサービス事業、在宅における保健・医療・福祉サービス事業、さらに障害者サービス事業等の先駆的・開発的事業の「隣人愛」の理念に支えられ、静岡県で唯一の大学院社会福祉学研究科を開設しました。

本学の社会福祉学研究科では、社会福祉の実践援助法(ソーシャルワーク)と社会福祉学の理論・施策の研究の融合を通して、職場や教育現場での指導者としての高度な能力を修得できるソーシャルワーカーや専門家の養成を目指しております。そのための専門教科の科目と専攻分野として、ソーシャルワークの理論を応用し人間の尊厳性と生存権の侵害をいかにして回復していくかを学習する「ソーシャルワーク研究」、高齢者をめぐる様々な生活課題を把握し、高齢者とその家族を地域社会の中で支援していく在宅福祉を中心とする方策についての学習である「在宅福祉研究」、さらに利用者のあらゆる福祉ニーズを的確に捉え、生活者として地域社会や社会福祉施設で生活できるような効果的な生活環境の整備と施策を研究する「生活環境研究」の三つの研究領域を中心しながら、社会福祉学研究科共通科目から学生の研究テーマに関する科目を選択履修することになります。

具体的には現場の実践援助活動の課題を分析し事例研究等の検討を通して理論研究を進めて行きます。本研究科は三年制(修士課程)ですが、長期在学コース(三年制)も設定しており、現場の方々や福祉の専門家を目指す方々にも開放されております。社会福祉の臨床分野のユニークな研究科の形成を目指しております。

聖隸クリストファー大学 リハビリテーション学部

● ● ● ● ● 学部長 小川 恵子

● ● ● ● ● 作業療法学専攻

専攻長 宮前 珠子

この四月に開設しましたリハビリテーション学部には理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻の三専攻あり、それぞれに三三名、三二名、二〇名の計八五名の学生が入学してまいりました。うち二八名が男子学生ということで、他の大学(養成校)に比して、男子学生が多いような気がします。ほとんどが高校を卒業してすぐの方々です。したがつて若さにあります。活気があります。

当大学は環境に恵まれています。緑の木々に囲まれ、また周囲には種々の障害者老人施設があり、将来の職場としての候補地であることから、それらの施設の入所者にも接する機会もあり、いろいろなことを肌で感じながら、勉学に勤しむことは幸せだと思っています。

また既に、看護学部、社会福祉学部が設置されていることから、将来のチームメンバーと共に学べること、専門の先生方に恵まれていることなども幸せなことと言えます。勉強は決して楽とは言えませんが、精一杯キャンパスライフを楽しんでもらいたいと思っています。

● ● ● 理学療法学専攻

専攻長 吉川 卓司

理学療法学専攻は今年度、一期生三三名の入学者と四名の専任教員でスタートしました。理学療法士に対する社会の期待を感じて入学してきた優秀な学生たちですが、理学療法学の学術レベルの高さと臨床の厳しさを説く教員を真摯な眼差しで見つめています。当専攻は理学療法学の各分野でゆるぎない技量と学術レベルを有する教員が集まっています。今年度赴任したのは内部障害分野(呼吸・循環・代謝など)の専門家、小児・発達分野の専門家、地域理学療法の一翼を担う介護老人保健施設での経験を持つ専門家です。

来年度以降も次々と各分野のスペシャリストが赴任予定であり、学生ともどもよりいつそうの向上心をもつて頑張っています。

九〇〇〇人程度(平成十六年四月)とまだ少ない状態です。近年は病院、福祉施設だけでなく訪問リハビリや介護施設など益々活躍の場が広がっています。



▲演習・実習で使用する言語聴覚観察室



▲理学療法学多目的実習室

作業療法学専攻は三三名の新入生と四名の教員でスタートしました。一年後には一二〇余名の学生と九名の教員が揃います。作業療法は、対象者が障害のためにできなくなっている作業(日常生活活動・仕事・遊び)ができるようにし、QOL(生活の質)を高めるのが究極的目的です。そのため作業療法士には、患者、家族、他職種などと協力して、各人が持つ多様な問題に対処し解決する能力が求められます。作業療法学専攻では専門教育について課題解決型学習(PBL)を導入し、学習者を中心教育を行い、高度の専門知識・技術のみならずコミュニケーション能力と柔軟な対処能力を持つ作業療法士の育成を目指しています。

● ● ● 言語聴覚学専攻

専攻長 長谷川 賢一

言語聴覚学専攻では国家資格である言語聴覚士を養成します。言語聴覚士は人間にとって最も基本的で重要な聞こえやことば、さらには食べる機能に関わる専門職です。

わが国には人口あたり5%の言語聴覚障害者がいるとされています。これに食べることの障害を含めると、その数は計り知れません。言語聴覚士はこういった方々の機能回復ならびに維持を図りながら社会参加を支援します。



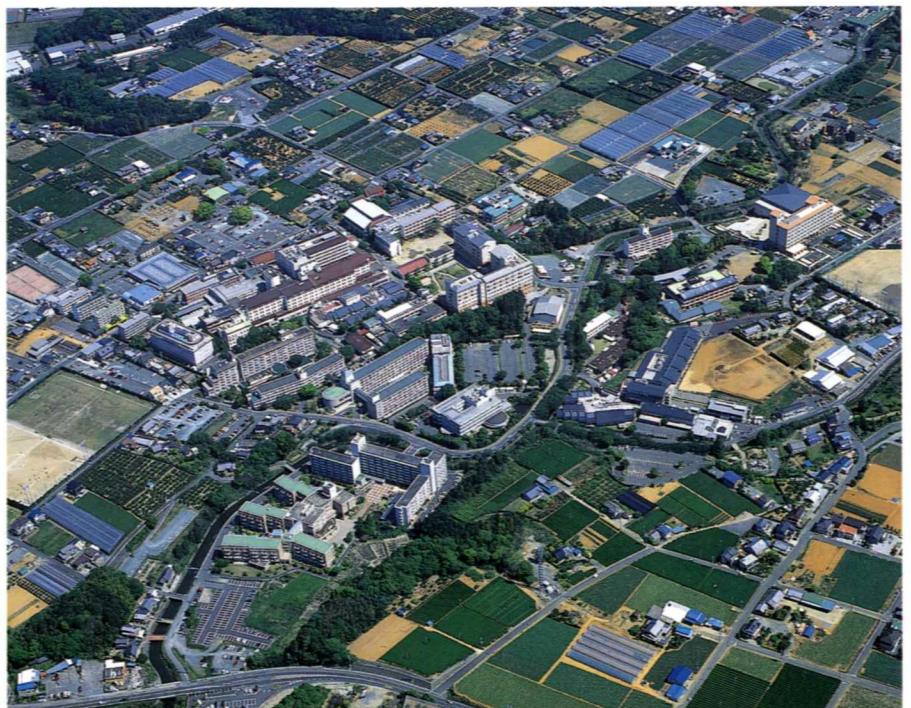
▲理学療法学・作業療法学で使用する数多くの機器を取り揃えている機能訓練室

三年目にして卒業生を 送りだす社会福祉学部

社会福祉学部長 遠藤 久江

新設学部が完成年度に向けて歩みを進めていく場合、学生にとりましても教員にとりましても、一年ごとが新しい経験であり、新しい試練に直面します。複雑に交差するカリキュラムを学生一人ひとりの希望や選択にあわせて履修指導をし、達成感のある勉学を保障していく過程は、四年目にしてはじめて全体像が見えてくるものではないでしょうか。教員と学生のかかわり、そして実習先の指導などが綾なして、対抗発展していく様を思い描きながらこの年度を歩んでまいります。

この時期、九名とはいえ、はじめての卒業生を送り出すという経験は社会福祉学部にとりましては貴重な経験になると考えています。九名のものが第七、八セメスターの科目を履修し、卒業研究を完成させ、希望の職場を得、難関の国家試験に果敢に挑戦して良い成果をあげること、この目標に向かつて、学生と教員の共同作業が続きます。



▲三方原地域の医療・福祉・教育ゾーン全景

看護短期大学部の 近況について

看護短期大学部長 塚田トキエ

こと、何らかの資格を保有しており、それを使って働いた経験をもつている者がいることが挙げられます。反面生活維持のためのアルバイトに割く時間も多いことも見受けられます。

このような変化する社会のニーズに対応するために、聖隸クリストファー大学は「九五」一年看護学部のみの単科大学として開設され、六年後の「九九八年には大学院看護学研究科を開設しています。さらに、「〇〇」年度には社会福祉学部、本年度からはリハビリテーション学部および社会福祉学研究科が増設され、保健・医療・福祉にかかる専門職の養成および研究の場として形を整えてきました。

病む人々のケア、あるいは病気や障害にかかりらずその人らしく生きることを支援するために、は、確実な知識・技術に裏付けられた高度な専門性と豊かな人間性が必要であり、研究や実践の場において互いの専門性を生かした共同の取り組みがますます重要になっています。看護・社会福祉・リハビリテーションの各分野がそろうどい本学の特色を生かして、実践の基盤となる新しい知識を構築するための研究活動および現場を担う専門職業人の養成に向けてさらに努力していくたいと考えております。

二十二世紀の日本では、超高齢社会・情報化社会への移行、高度医療・在宅医療の進展など加速度的に社会情勢が変化しており、健康問題をもつ人々は病院から地域社会あるいは施設へと拡散し要求されるケアの質も大きく変わろうとしています。保健・医療・福祉の充実は義務で

看護学研究科長
木下 幸代

木下
幸代

二十一世紀における 大学院の役割

看護学部長
鈴木 恵理子



▲聖母マリア像——主堂1号鏡、2号鏡、3号鏡校金全量

看護短期大学部の 近況について

看護短期大学部長 塚田トキヱ

の実習室も実習用のテーブルを入れ替え設備も充実し、人數増に対応できるように準備しました。

さて、新入生につきましては、上級生の企画運営による新入生セミナーなどで暖かく迎えられ、今のところ無事に一ヶ月がすぎようとしています。ある日、年次生一四七名が一室に集まつての授業を観いてみました。新築の三号館六階の大教室に行くためのエレベーター前は長蛇の列で、着席すると大教室も隙間がないほどでしたが、学生からは「大学っぽくつていい」ときわめて明るい声が返ってきました。一方、「大勢だと誰かがおしゃべりをしていると、先生の声が聞こえにくい」との声もありました。一週間に開講されている一年次生の講義二二コマのうち、共通科目をはじめとする選択科目が半分弱あり、残りの看護学部独自におかれている科目のほとんどは一四七名を一クラスに分け、授業が行われています。一クラスに分けた七〇数名での講義を担当している教員はみな、「全部の学生に目が届いて、とても授業がしやすい」と言っています。これから開講する科目についても、一四七名が使いやすいように設備面を整え、学生の反応を注意深く見ながら、それぞれの科目の特色を考え、「一クラスあるいは三クラスに分けて授業をしていきたいと考えています。

聖隸クリストファー高等学校

魅力ある学校を目指して

副校長 茂田 勇

空に聳える七階建ての校舎は、本校の限り無い可能性と輝かしい未来を象徴しているように思えます。他校に例を見ない恵まれた施設・設備の中、二〇〇四年度が落ち着いた雰囲気でスタートしました。充実した教育環境にふさわしい教育内容を実現するにはどうしたらよいか、とても大切な一年になると考えています。

高等学校を取り囲む状況には極めて厳しいものがあります。矢継ぎ早に押し寄せる教育改革の波、急激な少子化の進行などです。とりわけ急激な少子化の進行は選ぶ時代から選ばれる時代への変化をもたらし、魅力のない高校は衰退して行かざるを得ない状況にあります。魅力ある高校とは、中学生や保護者の視点からとらえれば、「進学したい学校・進学させたい学校」であります。では、本校の魅力とは何か、三つほど述べてみます。

【本校の魅力 その一】

教育環境(施設・設備)の素晴らしさです。中学生や保護者の皆さんには、ぜひ本校を訪れ、肌で感じてほしいと思っています。聖隸クリストファー大学が隣接して存在し、各学部(看護、社会福祉、リハビリテーション)への進学の道が開かれていることも他校にはない大きな魅力となっています。本校で充実した教育を受けた生徒達が行く行くは聖隸クリストファー大学に進み高い専門性を身に付け、看護師、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士あるいは福祉分野の指導者として活躍してくれることを期待しています。

【本校の魅力 その二】

本校の教育の特色は、「一人一人の生徒の適性に配慮したコース制が導入されているところにあります。一人一人を大切にして伸びる学校です。

例えば「特進コースⅠ類」は、進学校としての本校の未来を切り拓く使命を負って誕生しました。難関国公立大や医学部、その他の国公立大・難関私大合格を目指して、少人数クラス編成、習熟度別集団による授業、土曜講座、長期休業中の登校学習、

勉強合宿、個人指導等、様々な学力向上対策が取られています。

三回生(現三年生)は、

既に実施された外部模試で良好な成績を収めていますが、これらが対策が功を奏しているものと思っています。

今後は、担任を中心と

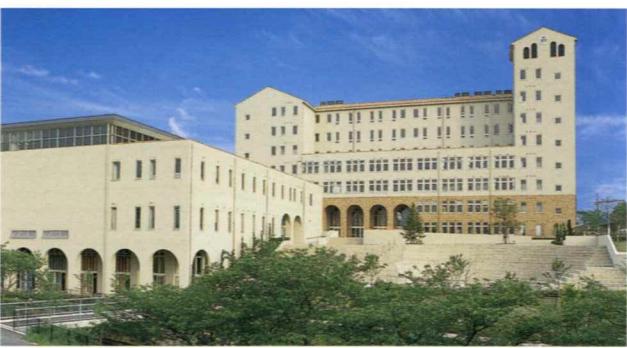
する教員集団のチームワークと粘り強い指導

で最後まであきらめず
に頑張らせ、素晴らしい結果を出したいと思っています。

【本校の魅力 その三】

「あの男子バレーの強い学校ですね」「聖隸クリストファーはこれから伸びる学校ですね」。これらは、ある教育関係者の集まつた席で、私に投げ掛けられた言葉です。嬉しくなりました。本校の魅力について考る時、男子バレー部の活躍は大きなヒントを与えてくれます。こうした二つの活躍が本校の評価を高め、確かな伝統を築き、本校の魅力となつて行くのだと思うからです。野球部・サッカー部などにも豊かな可能性を感じています。近い将来、結果を出してくれることでしょう。文化部の活動にも力を入れ、「勉強も凄いけど、部活動も活発」そんな学校にしたいものです。

本校は、昨年の新築移転を契機に、地域から信頼される「魅力ある学校」づくりを「層進めるための第歩を歩み出したところです。「先進校に学ぶ」という趣旨で、四月には榛原高校に、五月には甲陵高校(山梨県)に多数の教員を派遣しました。先進校の優れた教育方法を積極的に取り入れ、「魅力ある学校」づくりに資するためです。建学の精神を基盤に据え、全教職員の知恵と汗を結集して「進学したい学校・進学させたい学校」づくりに努めたいと考えています。



▲限り無い可能性と輝かしい未来を象徴している校舎・体育館

▼今年3月の春高バレー全国大会で優勝した佐世保南高校と3回戦でフルセットを戦い、3度マッチポイントを握る大接戦を演じた男子バレーボール部



◀聖隸クリストファー大学2005年度入試概要▶

学部・学科・入試種別と募集人員

■看護学部 看護学科／140名

入試種別	人数
公募制推薦入学Ⅰ	20名
公募制推薦入学Ⅱ	10名
キリスト教学校教育同盟加盟高等学校特別推薦入学	5名
併設高等学校推薦入学	10名
社会人特別入試	若干名
一般入試(前期)	62名
一般入試(後期)	12名
大学入試センター試験利用入試(前期)	12名
大学入試センター試験利用入試(後期)	7名

■社会福祉学部 社会福祉学科／95名 (社会福祉専攻・介護福祉専攻)

入試種別	人数
AO入試(第Ⅰ期・第Ⅱ期)	14名
公募制推薦入学	8名
指定校制推薦入学	15名
併設高等学校推薦入学	10名
社会人特別入試	3名
一般入試(前期)	35名
一般入試(後期)	5名
大学入試センター試験利用入試(前期)	3名
大学入試センター試験利用入試(後期)	2名

*専攻は、入学後約1ヶ月の間にオリエンテーションを複数回実施し、面接等を行った上で決定します。

編入学・専攻科

■看護学部

編入学試験(2年次編入学)	5名
編入学試験(3年次編入学)	若干名

■社会福祉学部／10名

編入学試験(秋季)	5名
編入学試験(春季)	5名

■専攻科／15名

専攻科入試	15名
-------	-----

大学院

■看護学研究科／10名

秋季入試	秋季・春季合併して	10名
春季入試		

■社会福祉学研究科／10名

秋季入試	秋季・春季合併して	10名
春季入試		

入学者選抜日程

■推薦入学・一般入試等 *個別の出願資格審査申請受付期間：9/1(水)～9/24(金) *資格審査結果通知：10/1(金)

学部	入試種別	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
看護学部	推薦入学	11/1(月)～11/10(水)	11/18(木)	11/26(金)	11/29(月)～12/7(火)
	社会人特別入試	11/1(月)～11/10(水)	11/18(木)	11/26(金)	11/29(月)～12/7(火)
	一般入試(前期)	1/7(金)～1/24(月)	2/3(木)	2/14(月)	2/15(火)～2/25(金)
	大学入試センター試験利用入試(前期)	1/7(金)～1/24(月)	個別試験はありません	2/14(月)	2/15(火)～2/25(金)
	一般入試(後期)	2/14(月)～2/28(月)	3/8(火)	3/15(火)	3/16(水)～3/24(木)
	大学入試センター試験利用入試(後期)	2/14(月)～2/28(月)	3/8(火)	3/15(火)	3/16(水)～3/24(木)
リハビリテーション学部	推薦入学	11/1(月)～11/10(水)	11/18(木)	11/26(金)	11/29(月)～12/7(火)
	一般入試(前期)	1/7(金)～1/24(月)	2/2(水)	2/14(月)	2/15(火)～2/25(金)
	大学入試センター試験利用入試(前期)	1/7(金)～1/24(月)	個別試験はありません	2/14(月)	2/15(火)～2/25(金)
	一般入試(後期)	2/14(月)～2/28(月)	3/8(火)	3/15(火)	3/16(水)～3/24(木)
社会福祉学部	推薦入学	11/1(月)～11/10(水)	11/18(木)	11/26(金)	11/29(月)～12/7(火)
	社会人特別入試	11/1(月)～11/10(水)	11/18(木)	11/26(金)	11/29(月)～12/7(火)
	一般入試(前期)	1/7(金)～1/24(月)	2/2(水)～2/3(木)	個別試験自由選択、両日受験可	2/14(月)
	大学入試センター試験利用入試(前期)	1/7(金)～1/24(月)	個別試験はありません	2/14(月)	2/15(火)～2/25(金)
	一般入試(後期)	2/14(月)～2/28(月)	3/8(火)	3/15(火)	3/16(水)～3/24(木)
	大学入試センター試験利用入試(後期)	2/14(月)～2/28(月)	個別試験はありません	3/15(火)	3/16(水)～3/24(木)

■社会福祉学部AO入試 *AO入試にエントリーされる方は「AO入試ガイド」を入試・広報センターまでご請求ください。

期	エントリー期間	第1回面談	第2回面談	出願許可通知	出願期間	合格発表	入学手続期間
第Ⅰ期	7/1(木)～7/16(金)必着	7/27(火)	8/24(火)	9/3(金)	9/6(月)～9/13(月)必着	9/17(金)	9/21(火)～9/28(火)
第Ⅱ期	8/30(月)～9/10(金)必着	9/18(土)	10/16(土)	10/22(金)	10/25(月)～11/1(月)必着	11/5(金)	11/8(月)～11/15(月)

■編入学試験

学部	入試種別	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
看護学部	編入学試験(2年次・3年次編入学)	9/6(月)～9/22(水)	10/2(土)	10/8(金)	10/12(火)～10/22(金)
社会福祉学部	編入学試験(秋季) 編入学試験(春季)	9/6(月)～9/22(水) 2/14(月)～2/28(月)	10/2(土) 3/8(火)	10/8(金) 3/15(火)	10/12(火)～10/22(金) 3/16(水)～3/24(木)

■看護短期大学部

専攻	入試種別	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
専攻科助産学特別専攻	専攻科入試	11/1(月)～11/10(水)	11/18(木)	11/26(金)	11/29(月)～12/7(火)

■大学院

研究科	入試種別	入学資格審査申請受付期間	資格審査結果通知	出願期間	選抜期日	合格発表	入学手続期間
看護学研究科	秋季入試	7/26(月)～9/10(金)	9月中旬	9/21(火)～10/8(金)	10/16(土)	10/22(金)	10/25(月)～11/5(金)
	春季入試	11/15(月)～12/6(金)	12月中旬	1/7(金)～1/24(月)	1/29(土)	2/10(木)	2/14(月)～2/25(金)
社会福祉学研究科	秋季入試	7/26(月)～9/10(金)	9月中旬	9/21(火)～10/8(金)	10/16(土)	10/22(金)	10/25(月)～11/5(金)
	春季入試	11/15(月)～12/6(金)	12月中旬	1/7(金)～1/24(月)	1/29(土)	2/10(木)	2/14(月)～2/25(金)

お問い合わせ先 | 入試・広報センター TEL:053(439)1401 FAX:053(439)1430 E-mail:cl-entrance@admin.seirei.ac.jp http://www.seirei.ac.jp

*出願に際しては、入試日程・募集人員等を募集要項にてご確認ください。

◆ 2004年度消費収支予算書及び資金収支予算書

【2004年度予算の概要】

◆2004年度は第二次10ヵ年計画の3年目に当たります。その計画に沿って2002年度には社会福祉学部を設置し、2003年度には高等学校の全面移転と大学3号館の建築を行いました。2004年度にはリハビリテーション学部（入学定員80名）と大学院社会福祉学研究科（入学定員10名）を開設し、また看護短期大学部（入学定員100名）は専攻科助産学特別専攻（入学定員15名）を残して学生募集を停止し、その入学定員40名を大学看護学部（入学定員140名）に振り替えました。

◆2004年度予算はこうした集中的な設備投資や学部増設の影響を受け、未完成学部を2学部擁することもあって財務上のゆとりを一時的に失うことになります。これに対応するため資金収支では中長期財務計画に基づく短期借入金13億円(年度内にすべて返済)を計上しています。また消費収支では収支の均衡を欠き、収支差額がマイナスになります。これは支出において学部増に伴う人件費の増加および施設設備の新規取得に伴う減価償却額、リース料、建物保全費、光熱水費等が増加するとともに、収入においては納付金収入が4年間で段階的に増加し、補助金は4年間は交付されないという未完成学部の収入構造によるものです。学園全体の財務比率は、基本金組入額の増加により消費収支比率が上昇し、消費支出比率も110%を超える状況ですが、これは固定資産の取得と織り込み済みの未完成学部の影響によるものであり、すべて中長期計画の見通しの中で進んでいます。

◆中長期の財務計画では、未完成学部が完成年度に向かうにつれ、早ければ2007年度には収支がプラスに転じる見通しです。また、資金収支においても2005年度までの2年間は単年度の支払資金が減少するものの、社会福祉学部が完成年度を迎える2006年度以降は、支払資金は着実に増加する見通しです。今後の大学院リハビリテーション学研究科設置、中学校設置、チャペル建築、大学院博士課程開設等次期将来計画の実現を考えますと、財務体质の強化や財務上の安全対策からも消費収支差額は150,000千円から200,000千円（帰属収入に対する比率6～8%）は必要と考えます。2008年度の財務比率は人件費比率60%、教育研究経費比率25%、管理経費比率7%、消費支出比率92～94%を目指し、今後はこの財務体质に移行していくことが課題となります。

2004年度資金収支予算書								(単位:千円)
	法人	看護学部	社会福祉学部	リハビリテーション学部	看護短期大学部	高等学校	合計	
資金 収入の部	学生徒等納付金収入	0	828,590	385,246	136,000	289,688	328,998	1,968,522
	手数料収入	0	26,814	9,951	25,220	2,750	15,100	79,835
	寄付金収入	0	2,200	500	0	500	900	4,100
	補助金収入	0	170,164	103	44,026	2,705	217,841	434,839
	資産運用収入	0	1,579	1,162	582	1,077	1,681	6,081
	雑収入	0	1,634	1,086	384	17,383	21,450	41,937
	借入金収入	0	516,100	211,900	110,500	146,900	314,600	1,300,000
	前受金収入							977,392
	その他の収入							20,014
	資金収入調整勘定							△941,439
前年度繰越支払資金								1,053,765
収入の部合計								
資金 支出の部	人件費支出	60,824	564,954	375,070	190,918	250,668	389,715	1,832,149
	教育研究経費支出	0	139,715	84,500	43,515	57,380	147,754	472,864
	管理経費支出	34,940	45,192	32,529	27,465	8,324	20435	168,885
	借入金利息支出	0	15,266	581	303	402	45542	62,094
	借入金返済支出	0	531,760	211,900	110,500	146,900	365,460	1,366,520
	施設関係支出	23,850	501,363	1,452	43,196	1,092	0	119,726
	設備関係支出	9,000	8,998	2,213	48,947	2,704	2835	74,697
	予備費	0	4,000	1,600	800	1,100	2400	9,900
	その他の支出							406,282
	資金支出調整勘定							△56,738
次年度繰越支払資金								488,613
支出の部合計								
	128,614	1,360,021	709,845	465,644	468,570	974,141		4,944,992

においてリハビリティー、ヨン・社会福祉・看護を学び、研究する学生、員にとって良き学習の場、研究の場となり、やうには地域に対しても福祉の心を知り、学ぶことのできる資料館をしての働きを展開していくことができるこ



り、聖隸グループが共有するキリスト教の精神・理念と歴史、現在に至る経緯をより多面的に捉えることができます。すでに特別展としては、インド聖隸希望の家とブラジル希望の家の特別展(二〇〇一年五月～十月)、十字の園特別展(二〇〇二年十月～二〇〇三年四月)、小羊学園特別展(二〇〇三年五月～二〇〇三年十月)、牧ノ原やまばと学園特別展(二〇〇三年十一月～二〇〇四年七月)が実施され、現在、神戸聖隸福祉事業団特別展(二〇〇四年七月末からの予定)の準備が進んでいます。これから予定としては、遠州栄光教会特別展(二〇〇五年一月)、聖隸福音事業団特別展(二〇〇五年八月)、聖隸学園特別展(二〇〇六年二月)が計画されていて、拡張部分の展示が全て整うのはあと二年先ですが、この聖隸歴史資料館が聖隸グループの各法人と職員にとっていつも聖隸事業の原点と目指すべき方向を示す資料館として存在感を持ち、又、

聖隸歴史資料館拡張のお知らせ